

○議 事 日 程

平成29年5月24日（水）午後1時開会

○出 席 委 員 （8名）

委員長	眞 鍋 昇	委員
	山 口 行 一	委員
	大 森 康 二	委員
	近 藤 彰 彦	委員
	林 謙 一 郎	委員
	谷 本 直 貴	委員
	岩 佐 聖 二	委員
	長 谷 川 敦 子	委員

○事務局

企 画 財 政 部 部 長	工 藤 恵 司
企 画 財 政 部 行 財 政 管 理 監	今 西 麻 之
企 画 課 長	尾 崎 剛
企 画 課 課 長 代 理	鈴 木 将 巳
企 画 課 主 任	平 祐 徳
企 画 課	西 田 奈 緒

~~~~~

◇ 午後1時00分 開会

○委員長 皆さんそろっていらっしゃいますので、平成29年度、この委員会としては3年目になるのかと思いますけども、第1回目の守口市まち・ひと・しごと創生委員会を開催させていただきます。委員の皆様方におかれましては、公私ともに何かと御多用の中、お集まりいただきまして、本当にありがとうございます。

今般、皆様お勤め先で若干の人事異動があったようなので、新しく委員になられた方に一言御挨拶いただきたいと思います。時計回りがいいですね、こちらから、一言よろしくをお願いします。

○委員 今年の1月に三菱東京UFJ銀行大阪公務部に赴任いたしました。よろしくお願いいたします。前場所が姫路で、その前が東京で、生まれも育ちも東京でございまして、大阪のことはあまりまだよくわかってない状況でございすけども、そういった目線でいろいろと何かお役に立てる情報があればいいなと思って参加しております。今回からになります、よろしくをお願いします。

○委員長 よろしくをお願いします。

○委員 りそな銀行守口支店に着任いたしました。よろしくお願いいたします。長年、守口市さんともども地元で一緒になって、市の発展であるとか、市の企業の発展であるとか、住民の方の幸福であるとか、そういったところに少しでも力になればというところで手前ども長年やってまいりまして、去年ちょうど70周年を迎えたところでございますので、市政とともに今回この役割を賜りましたので頑張ってみりたいと思います。よろしくをお願いします。

○委員長 委員。

○委員 日本政策金融公庫守口支店支店長として4月1日に赴任してまいりました。生まれは神戸でございまして、大阪府内の支店は2カ所ぐらい勤務はしているんですけども、この北河内である守口を初めとしまして、この地域の勤務は初めてでございまして、今、勉強をさせていただいてるところでございす。政府系金融機関として何ができるかということをお願い

考えながら、この委員会に参加させていただきたいなと思ってございます。

前任地が愛媛県の新居浜でございまして、新居浜で地方創生の委員には参加をさせていただいておりました。いろんなアイデアを、あそこはそれほど知名度がないんですね。そうは言っても住友グループの発祥の地ということで、そういったのを生かして、今、地方創生に取り組んでやっているとございまして。そういった意味では、当地と環境としては、パナソニックさんの企業城下町ということもあり、似たような環境も1つはあるのかなと思いつつながら今やらせていただいているところです。ひとつよろしく願いいたします。

以上でございます。

**○委員長** どうもありがとうございました。

それでは議事に入ります前に、昨年からお願ひしているんですけども、一応議事録を作成するために、そこで録音しているんですけども、後で、どなたの御発言かわからなくなってということもございましたので、非常に恐縮ですけども、御発言の前に手を挙げていただいて、お名前を言っていただく、あるいは、私からお名前を呼ばせていただくということをお願いしたいと思います。

それでは、最初に事務局から本日の出席委員の数の報告を受けたいと思います。事務局、お願いします。

**○事務局** 御報告申し上げます。本日の出席委員は定数13名中8名でございます。

**○委員長** ただいま事務局から御報告いただきましたように、本委員会の条例第5条第2項の規定に基づいて定足数に達しておりますので、この会議は成立いたします。

次に、前回の会議等の議事録について、事前に皆さんに配布させていただいて、それにつきまして異議等がございますでしょうか。特に、ございませんか。

それでは、特段異議がないということで、前回お伝えしました署名委員をお願いして委員と元委員になるんですけども、署名いただき、それで議事録として決定させていただくということをお願いしたいと思います。委員

と元委員、よろしく願いいたします。

○委員 はい。

○委員長 早速ですけども、議事に従って進めさせていただきたいと思えます。

議題1の報告につきまして、お手元に資料を配布させていただいております。「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略に係る平成29年度において新たに実施した取組について」という資料がございます。これに沿って事務局より報告を受けたいと思えます。

○委員長 事務局、お願いいたします。

○事務局 それでは、お配りしております資料1をごらんください。

こちら今年度新たに開始しました取り組みの1つで、テレワークオフィスというものを開始しました。こちらのテレワークオフィスは、ICTを活用して時間や場所を有効に活用できる柔軟な働き方ということで実施しております。また、国のほうでも働き方改革においても注目されている新しい取り組みでございます。

本市におきましては、桜町、京阪守口市駅の商店街に1カ所と、大宮通オフィスということで守口市の保健センターに1カ所ございます。

4月末までのこちらを活用された実績ですけども、20件程度御利用されておりまして、こちらを使ったアンケート内容といたしましては、「備品等の必要なものは準備されていた」とか、「ネット環境は快適でした」、また、「静かに業務に集中できる」といった声がありました。また、利用された方の主な目的といたしましては、ワーク・ライフ・バランスの一環で利用されている方が多く、次に地域ネットワークを広げるためといったようなアンケートの答えがありました。

以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございます。

割合最近はやりのテーマかと思うんですが、働き方改革、あるいは、ワーク・ライフ・バランスという言葉は盛んにニュースにも取り上げていますけども、これにつきまして、委員の方々から御意見いただきましたらとありがたく存じます。

先ほど委員からも、新居浜でもいろいろ取り組まれてきたということで、僕は、新居浜は住友の発祥の地とよく知ってるんですけども、そういうところで取り組まれてるような内容とも比較しながら、何か御意見ございますか。

○委員 テレワークオフィスにつきましては、これからいろいろ広がっていく取り組みだろうとは思いますが、主に、こういったような方が活用されていらっしゃるんですか。

○委員長 事務局、どうでしょうか。

○事務局 テレワークオフィスの主な利用者といまして、主に30代から40代の方が多いです。男女は、ほぼ半々ぐらいの形で利用されてるような状況でございます。

○委員 事業をされてる方も活用はできるのでしょうか。

○事務局 そうですね、事業活動されてる方も、個人のスペース、デスクがありますので、そちらで利用することも可能です。

○委員 どの地域でもやっているとありますが、創業とかをサポートするということで、こういったオフィスを提供して、働きやすい職場環境をつくっていくのも1つ必要かなと思ってるところでございます。

先ほど、委員長から新居浜の話がどうかと、住友の話が、ちょっと脱線するんですけども、新居浜も住友グループの発祥の地ということで、別子銅山から住友金属鉱山、そして住友化学、住友林業、住友重機と、これは全部銅をとるための関連した会社がここで生まれたということでございまして。

やはり、御多分に漏れず人口は減っていくということですが、さてどうやって人口を呼び戻すかということで、今考えてる重点取り組みの1つがCCRC、若い子ではなくて、アクティブシニアを呼び込む、「生涯活躍のまち」って全国であちこち、今、取り組んでいらっしゃる自治体があるとは思いますが、特に新居浜の場合は、住友グループの皆さん方、一旦は新居浜でお働きになって全国に散っていくということで、新居浜というところになじみがある、その方たちをもう一遍呼び戻そうということで、お元気うちに、50代、60代、70代ぐらいがターゲットになるんだろうと思いますが、そういったような方を呼び戻すと。企業城下町版CCRCという名前をとられて、住友関係の皆様方に周知を、住友関係だけではな

いんですけどね、裾野は広いので、いろんな関係の会社、あるいは、新居浜で働かれているような方が一旦出られるというようなことで、そういった方を呼んでこられるというような取り組みをされているところでございます。

働く場を提供するということとともに、そういったアクティブシニアの方が生き生きと趣味ないしは教える場なんかも含めて、生活していけるような場を提供するというような取り組みをされているのが特徴的かなと思いました。

○委員長 企業さんということで、委員は、ちょっと関係がないのかもしれませんが、パナソニックでも関係がもしあるようなことがありましたら。

○委員 実は弊社では来年2018年に、創業100周年を迎えます。その100周年のプロジェクトの一環として「働き方改革」に着手しており、その中でオフィス改革といって、我々の勤めるオフィスの見直しを行っています。従来のように、会社に来て黙々と仕事をするというだけではなくて、会社は人との触れ合いの場、情報共有の場として、またプライベートなり、コミュニケーションなり、またサードプレイスという言い方をしていますが、従来のオフィスと違った執務空間で仕事に取り組むことで、一人ひとりのやる気を喚起して生き生き働ける職場づくりということに取り組んでいます。このように企業は企業としてそういった取り組みがされていて、企業にお勤めでない人たちには、市の行政がこういう取り組みをされているということは、非常にいいことだと思います。我々の取り組みとタイムリーだなという気がしました。

○委員長 市民の目から見まして、いかがですか。委員は、どのように感じておられますか。

○委員 私はこれを送っていただいてからこれを知ったので、市民の方向けにどのように広報されているのかなと思ったんですけども、その辺をちょっと事務局から説明していただいてもいいでしょうか。

○委員長 お願いします。

○事務局 テレワークオフィスなんですけども、この4月から始まりましたので、守口市の広報及びホームページで、今、周知してるところでございます。

○委員長 その後、市民の方から何かレスポンスとか、そういうのはいかがですか。

○事務局 現在、担当課に確認をしましたところ、利用者については、申し込んで利用するという形になってるんですけども、その他の意見等は聞いてるところはないです。

○委員長 始まったばかりですね。

○事務局 そうですね。

○委員 申し込みの仕方は、どうなってるんですかね。どなたでも自由に入りできるわけでしょうか。

○事務局 大宮通オフィスは予約制になってますので、事前に予約して利用していただく形になります。大宮通オフィスでは受付の方も部屋の入るところにいますので、そこに予約していく形になります。

○委員長 その取り組みについて、委員は、どう考えられますか。

○委員 取り組み自体はすごく前向きだなと思うんですけども、整理しておかないといけないところは、例えば、民間企業でも同じような取り組みがあって、行政が本当にやる必要があるんですかみたいところは出てくると思うんですね。そういう意味で言うと、行政が目指すところといいますか、例えば、産業面での活性化を狙っているのであれば、そこにつないでいく何かをもうちょっと明確にしておいたほうが良いような気がします。

○委員長 この説明は実は事前に事務局の方から伺って、ちょうどその直後に、夜中にテレビで見たんですが、東京は八王子とか結構遠いですよ。特に子供さんを持たれてる女性の方が、本社まで行くだけでも2時間、3時間が経ってしまう。そういう意味で、オフィスが八王子界隈にあれば、もちろん、いつも、いつもそこで仕事をするわけではないんでしょうけども、その時間だけでも子育てとか、そういうこととも結びついて、すごく助かるというようなことを紹介されて。そうか、かえって男性の方よりは子供さんを持たれてる女性で、場合によってはすごく助かることもあるのかなと思いつつながら、そのテレビを見てたんですけども。

守口市は最初の年にいろんな方のアンケートをとって、子供さんを育てる環境に、ちょっといまいち欠けてるところがあるんじゃないかというような

答えの方が多かったかと思うんですけども、そういった方面での、こういうものを利用していくと、確かに大企業は自分のところで準備もされてるんでしょけれども、必ずしもそういうところばかりじゃないときには、今、インターネットが使えれば、わざわざメインオフィスまで行かなくてもいい仕事って結構あるらしいんですよ。

そういう意味では、市が用意して、比較的簡単にいつもじゃないですけど、ぽんと使えるところがあると便利なのかなと思いつつながら、そのテレビ番組を見てたんですけども。そのあたりは市のほうでは今後の展開について、どういうふうに市民サービスとして考えられてるんですか。

○事務局　　今、始まって2カ月経過してる中で、これから市民の利用者の方のアンケートを参考にして今後の事業に反映していくような形になっています。まだ現在のところ明確な方向性もまだ決まってないところがございます。

○委員長　　ほかに、何か御質問とかコメントございますか。

○委員　　店舗のほうでも働き方改革については中の整備をまず第一に置いていて、それは、全てはお客様への良質な提案を演出するために、各個人、各グループのところでもまずすっきりとして、しっかりと仕事に打ち込めるような状況をつくるというところですけども、このテレワークオフィス、先ほどのお話にあったとおり、恐らく在宅勤務の制度がない会社に対してかなり有効活用ができるのではないかなという感覚を先ほど感じまして、なので、例えばこの有効活用の仕方を市のホームページからというのではなくて、もっと発信していったら、例えば中小企業であるとか、もちろん大企業のところでも在宅勤務制度がない会社をターゲットに、こういったところで、守口市のほうでも働けることをアピールしていけば、よりよい活用ができるのではないかなという印象を思いました。

○委員長　　なるほどね。東京の経験がずっとあるということで、というか、東京生まれの江戸っ子だということ。結構東京って、特に中央線は結構遠いんですよ。あるいは、千葉のほうを考えると。

○委員　　東京は、東京だけでなく、各県、埼玉であるとか神奈川だとか、かなり縦横無尽に通勤している方々が多いので、そういった意味ではかなりオフィスが遠いという、通勤に時間がかかるということがかなり多いところ

です。

○委員長 先ほど、テレビでやってたことに結んだ話であれですけども、保育園にお子さんを預けたりすると、時間の問題とかで、毎日毎日いうんじゃないんでしょうけど、結構便利なのかなと。

だから、もしこういうオフィスの近くに保育園とかが適切にあると、もっと便利になるのかなという気もしたんですけども。

○委員 確認になるのか質問になるのかわかりませんが、このテレワークオフィスというのは、機密性というか、間仕切りというか、企業としてやろうとするとやはり情報管理の問題もありますので、あまりオープンになり過ぎると逆に活用しづらいところもあるんじゃないかなと思います。

当行でも在宅勤務というものが、ワーク・ライフ・バランスを働き方改革の中で採用されて始まっているんですけども、やはり情報管理についてはパソコンのセキュリティーの問題だとか、そういったところをしっかりとガードをかけながら、在宅で勤務できるようにしているというところは二重、三重にガードをかけてやってるという状況です。そういった中で、このオフィスというのは確かに便利であろうというふうに思うんですけども、1つは企業側というか経営側から見ると、情報が外に漏れるんじゃないかというリスクがどうしてもついて回るというふうに、経営側からすると思ってしまうのかなというふうにも私自身は感じるんですけども、その辺の対策とか、このオフィス、すみません、行ったことないのに申し上げて大変失礼ですけど、間仕切りがどうなってるとか、話してる内容、やってる内容が外から見えづらくなってるとか、というような部分の対策というのはあるのか、もしくは、今後御検討がされてるのかというところを教えていただければと思います。

○事務局 桜町オフィス、大宮通オフィスと2つあるんですけども、大宮通オフィスのアンケートの中で、やはりオープンスペースはセキュリティー面に不安があったというアンケートの声もありまして、その反面、桜町オフィスについては、個室で対応しておりますので、そちらの心配はないかと思っております。

○委員長 何か、ほかに御意見とかございますか。

○委員 桜町も大宮も使える時間帯はいつでしょうか。市保健センターにあ

れば、夜10時ぐらいまでだと思いますけれど。

○委員長 事務局、いかがですか、そのあたりは。

○委員 利用料というのも、もしわかれば、お願いします。

○事務局 時間については、お調べします。

利用料については、ただいま試験的に実施しておるということで、無料になっております。今後、利用料については、有料にするかどうか検討しているところであります。

○委員長 事業が立ち上がったばかりで、まだ市も試行錯誤かと思うんですけども、次回、もう少し細かいことを話していただくと。

それから、今まで結構さまざまなテレワーク事業について御意見がありましたので、こういうことを今後、参考にしていただいて、より実りのあるものにしていただきたいと思います。よろしくをお願いします。

ほかに、これにつきまして、皆さんから御意見ございませんか。

それでは、事務局からの御提案ですけれども、事前に配布させていただいてます資料が「守口市まち・ひと・しごと創生総合戦略の重点取組」と非常に長ったらしいので、「シティプロモーション」と言えば少しコンパクトでわかりやすいかどうかちょっと人にもよりますけれども、「シティプロモーション」というタイトルに変えさせていただいてよろしいでしょうか。

そしたら差し支えないということで、事務局から説明をいただきまして、それについて意見交換をさせていただきたいと思います。

事務局、お願いします。

○事務局 シティプロモーションについてですけれども、本市において、このシティプロモーション、他団体と比較すると遅れてるかなという印象がございまして、今年度からこの分野に対して重点的に取り組みの強化をしているところでございます。

また、施策とか事業の充実と、これらのPRを同時に進めることで、非常に大きな効果を生むと考えております。このシティプロモーションにおいて市のイメージ向上ですとか、ひいては定住促進を目指していきたいと思っております。

また、このPR、シティプロモーションの対象者は大きく分けて、守口市

内に在住している方と守口市外に在住している方、この2つがあると考えております。ともに定住という大きな命題はあるんですけども、市内在住に関しては、これから未来に転出を防ぐような形で魅力発信、また守口市のよさを再発見していただきたいと思っております。

また、守口市外の方に対しては、守口市を知ってもらう、興味を持ってもらう、そこから、今度、住んでもらうために、イベントですとか商業地に足を運んでもらうというような観点もございます。

お手元にお配りしておりますA3の資料をごらんいただければと思います。資料2、カラー版です。これは、先進市の取り組みをちょっとこちらのほうに幾つかピックアップして載せさせていただいております。

まず左上の寝屋川市ですけども、こちら寝屋川市のロゴマークです。「ワガヤネヤガワ」と。上から読んでも下から読んでも「ワガヤネヤガワ」となるロゴマークですけども、摂南大学の学生が街頭アンケート、フィールドワークを通して、市と協働してつくったデザインとなっております。

その下の大東市、「大都市よりも大東市」、かけたような形になっておるんですけども、こちらも市民の方の意見ですとか専門家の提案を求めて、このブランドメッセージをつくっていったところなんです。

その下の香川県となっておりますけども、ここは「うどん県、うどん県」という売り方をしておるんですけども、こういったフレーズも香川県のでは作成しております。

次に右に行ってください高石市の広告ですけど、南海難波駅の柱に大きく広告を掲げております。お母さんが小さいお子さんを「たかい、たかい」して、「たかーい市」ということで、このような広告をつくっております。この写っておるお母さんとお子さんも高石市民の方だそうです。

最後、下のところがございますのがチキンラーメンの日清食品さんと池田市と大阪成蹊大学とが3者でコラボした「大阪池田チキチキ探検隊」というものがございます。もともと池田市はチキンラーメンの工場もございましたので、チキンラーメンを発信するという形で、市役所と観光協会と大学が実行委員会を組織して活動しております。

こちらのチキチキ探検隊ですけども、テレビ等メディアでもかなり多く取

り上げられて結構メジャーなものとなっております。

以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございます。

幾つか割合この近くの例を紹介されて、私は香川県の出身で、丸亀です。丸亀製麺と、あまりそういうので有名になってもうれしくないけど、ちょっと有名になったということですが。

こういうプロモーション、これも2年前になりますけど、やはり、いろんな市民の方にアンケートをとって、「守口市、守口大根とれる」、何それとかというような意見もあったんですね。昔々、この長い大根の漬物が有名で、それはそれでよかったんですけど。特に若い方に対して、住んでみたいなというようなときに、何かこういう、若い方がいいイメージを持つような、そういう努力も必要かなというようなことがあって、こういう提案があったかと思えます。

それで、まずは、僕は実は守口市民じゃないものですから、市民の方からこういう考え方に対して御意見を。委員、何かございませんか。

○委員 私が数年前に、よその県ですけれども、安来だったと思うんですけど、そこの見学バスツアーみたいなのに行ったことがありまして、そこで他県の方も通して、今度、安来のほうに住んでくれないかということで、若い人向けにもPRされたんでしょうけども、子育てとか、いろんなイベントがあったりとか、ドジョウすくいとか、そういうイベントにも参加させていただいて、その名産品を食べさせていただいたりとかして、PRされてたのを思い出したんですけど、守口もそういうふうな体験ができるようでしたら、きっと若い方で引っ越そうかなとか思っている人向けにそういうのを募っていただいたりとか、このごろ外国人の方もすごく多いので、そういう方向けにもちょっとPRをされて、今後、見学会みたいなのをされてもいいかなと思えます。

あと、吉本の観光大使の方がよく広報に載っておられるんですけど、そういった方にちょっと協力していただいて新喜劇風のプロモーションができたかなとか、若い人に来ていただこうと思ったら若い人の意見とかをもうちょっと取り入れていただいて、発信していくというのがいいんじゃないかなと

思います。

○委員長 観光大使って、何名ぐらいいらっしゃるんですか。事務局に伺いますが。

○事務局 お笑い芸人の方ですと、2名です。池乃めだかさんと太平サブローさんです。

○委員長 意外と少ないんですね。

○事務局 あとは、野球選手の岩田投手と、タレントの楠さん、U. K. という、4名です。

○委員長 委員、ほかに御意見は。

○委員 たくさんあると言えばあるんですけど。

現状で、ここ力入れてどれほど効果があるんだろうという気持ちと、そやけど観光大使4名の方と、ゆるキャラももっと早くにあればインパクトあったんだろうけども、ちょっと「もり吉」というゆるキャラも、せっかく誕生したわけですから、そういうものを大いに利用してやっていただいたらいいとは思いますが。

ただ、どこかの企業にお願いして丸投げで考えてもらうというよりも、やはり守口市民、20代、30代の若者に、先ほど委員からもお話がありましたけども、ワークショップを開いて、市民または市役所の職員、40代以上はもう要らないです。20代、30代の市民と市役所の若手職員でワークショップを開いて、このシティプロモーションの軸となるものを考えていただいたらいいかなと思いました。

あと、要は14万市民と市の職員の方が、全員が営業マンという気持ちになれば一番大成功だろうなと。ただ単にビデオをつくってインターネット上に動画を流して、パンフレットをつくって、まいて、駅に広告を張ってというだけで果たしてどうだろうという、費用対効果、今の現状でですね、思いました。

市の職員の方にお聞きするのは、ある意味、そういうヒントもあるんじゃないかなと思うのは、市内にお住まいの方は大体何パーセントぐらいだと思われませんか、委員長。

○委員長 市役所に勤められてる方ですか。

○委員 市内に居住されてるパーセンテージ。

○委員長 どのくらいでしょうか。

○事務局 大体3割程度です。

○委員長 意外と少ないんですね。

○委員 ですよ。ということは、それ以外の方はよそにいらっしゃるわけですから、ある意味そういう方から、そういう視点からも、内からも外からも、7割弱ぐらいだと思いますけども、外にお住まいの方は。そういう方々の御意見。企業に丸投げというのは、よくないんだろうなと思っております。もちろん、先生とこの大学の学生の方にも、やっぱり、この守口市に大学としてあるわけですから、大学生の方にも大いに、このあたりかかわっていただければと思いました。

○委員長 ありがとうございます。

比較的、市民といっても、お二人のように、こういう将来を展望したような御議論にお忙しい中を出席していただける方というのは、むしろ特殊かもしれませぬ。確かに、先ほどおっしゃったように、たまたまここに住んでいるとか、たまたま仕事があるからここに住んでるとか、そういう方のほうが場合によっては多いのかもしれませんが。もともとずっと先祖伝来で、ずっと住まわれてる方もいらっしゃると思うんですけども。

こういうプロモーションは、言い方は悪いんですけども、すごく市にも愛着があると、ずっと住んでるとか、現在も愛着があつてこういう委員会にも出ていただける方に対しては、本当は意味ないんですね。むしろ腰かけ的に住んでる人とか、今ここで仕事をしてるんだけど、この近くから通ってる人に、もっとここに住んだほうが便利だよとか、住みたいなとか、そういったことに向かったベクトルというんですか、そういうことは確かに必要だなと理解したんですけど、そのあたりはいかがですか。

○委員 これもどこかでお話ししたいなと思ったのは、今までずっと皆さんすごい意見を出していただいて、要は、一言で言えば、よそから人口を、わかりやすく言えば、パイの奪い合いという感じの、よそから、寝屋川から、門真から、旭区から、こっちへ住んでほしいなというような施策の提案みたいなものが話されてるんですけど、それってどうなんだろうと、ちょっと今

年に入って思い出しまして。

2020年、2025年問題、いろいろと大きく言われてますが、それに向かって守口市がどのようにやっていくか、それに人口減社会、高齢化率が高い時代に向かって、こういうことをやっていくというほうにも進んで、それこそ、よその市町村よりも先に進んでいくことも、この場でも考えていくべきかなと。もちろん違う部署で考えていらっしゃると思うんですけども、何か手当、若者の婚活に向けてとか、そのあたりのことだけでは、大きくは事態はかわらないんだろうなと思っております。

あと、今までは守口市だけの話であったので、近隣の市町村との連携とかいうことまで含めて考えていくのが大事じゃないかなと思いました。近隣の、この辺で言うと北河内エリア、また、川を越えてでもいいですけども、吹田市とかでも発想の転換でいいんじゃないのかなと。吹田市は健都といって、すごい健康について、予防から、本当の最先端の治療まで、国立循環器病センターも移転して、そこに集積されてやっていこうという町なので、そういうところとの連携もあつたら、守口市に住んだら健康のことに関してはちょっとプラスになるんじゃないかなという、漠然としたものですけど。

もともと関西医大の滝井の病院がありますし、守口には。これからのキーワード、健康寿命の延伸と子育て、教育、そのあたりをしっかりと高めていければ、こういうプロモーションはなくてもいいのではないかと思います。余裕があればあつてもいいんですけど。そういうふうに、ちょっと今の目先だけよりも、これからの子供たち、5年後、10年後、20年後の守口のことに向かってやっていただく。

それと、今思い出したのが、例えばワークショップ、若手の、それも市民から20代、30代、職員も20代、30代、2025年の守口のよさについて考えるとかいうテーマで集まっていただく。それすると、僕は一石二、三鳥ぐらいになるんじゃないかなと思ってます。そこで若者が出会いますよね。前回までの議論でいろいろあつた若者の出会いという話も、それも、そういうテーマで出会えるんじゃないかなと思いましたし、これから未来を担う若者たちに今の課題というのを知ってもらって、自分の力で考え進んでいただくということも何か用意してあげれば、しっかり考えていただけ

るんじゃないかなと思いました。

すみません、ちょっとまとまっていませんけど。

○委員長 どうもありがとうございました。

ほかの委員の方々も、全く個人的な御意見でも結構ですので、いただけましたら。委員、何か。

○委員 これ、ぱっと見てて、先進事例だけあって非常にいいのが載っけてらっしゃるなという。その場所が何に今、力を入れてて、誰に売り込んでるかというのがわかりやすくまとめられてるなど。それを誰に訴えかけるかというところがぴったりいけば、非常にこのプロモーションは効果があるんじゃないかなと。結果として、効果は見えませんが、何で効果をはかるかはわからないので。

ただ、何もやってない、ちょっとわかりづらいねというよりも、はっきりうちの守口市は何を今、愛してて、守口市民は何をよりどころにしてて、ここに住みたい理由は何かというのをぱっと押し出していくというのは非常に意味があって必要だろうというふうには思います。

広域で連携するというお話がありましたけど、これもやっぱり必要だろうと思います。守口市だけではなくて市域、ある程度この地域ですね、北河内一帯で、この地域の魅力を盛り上げていくということについても、必要性は私も感じているところでございます。

以上です。

○委員長 委員は、いかがですか。

○委員 同じ話になりますけども、守口に住んで、守口のよさって何ですかというところが、どういうふうにアピールできるかというのがやっぱり必要なのかなというふうには思います。

私、今、守口市民ではございませんで、奈良から通ってるんですけども、こう言ったら失礼ですが、思ったよりすごく近かったです。何となく近鉄で鶴橋まで出て、京橋まで出て、ぐるっと回ってこないで守口って行けないなというのが北河内というか、寝屋川もそうですし、門真もそうですけども、この辺のイメージでありましたけども、実際には地下鉄等々をうまく乗り継げば、前の職場、私は梅田だったんですけども、梅田とほぼ変わらない時間

で勤務地まで勤務できてるということですし。

以前には西宮支店というところにも住んでまして、今、西宮北口というのは御存じのとおりで、全国的にも住みたい町ナンバーワンみたいなことになって、もちろん阪急沿線とか、それ以外の要素もいろいろあると思うんですけども、ああいうのというのは、ガーデンズであるとか、梅田までの近さであるとか、そんなところをうまくアピールしたのか、もしくは、アピールしなくてもそういったところが認知されたのかというところはあるんですけども、そういうふうな部分があるのかなと考えると、谷町線に乗れば守口市駅から東梅田まで20分かかるか、かからないかで、梅北から梅田まで出るとほぼかわらない時間で出れますし、そういう意味では、近さとかというのもアピールの1つなのかなとも思います。

まだ着任して1カ月ちょっと、実質的には1カ月たつたたないかですけども、こちらに委員いらっしゃいますけども、パナソニックさんを初めいろんな企業さんがあって、いわゆる地元の中堅・中小企業さんがたくさんあって、働ける職場も、すみません、失礼な言い方になるかもしれませんが、私が思ってたよりもかなりの数あるというふうに認識しています。

そういう意味では、先ほど寝屋川だとか門真だとか、そういったところに住んでる若い方が地元で働ける職場がたくさんあるんですよということをアピールするのも1つのやり方かもしれませんし。

先ほど冒頭に申し上げましたように、どなたかもおっしゃってたように、守口ってこういうところですよ、だから住みたい場所です、行きたい場所ですというものをアピールする。じゃあ、誰に向けてというのもあると思うんですけども、若い方ということになるのかもかもしれませんが、こういったアピールというんですか、プロモーションでないと結局やっても意味がないのかなというか、費用対効果の部分で考えると費用倒れになるのかなというふうには考えます。

以上です。

○委員長 委員はいかがですか。

○委員 先ほどもお話が出ましたが、私も守口市さんは大阪、梅田にアクセスがかなりいいところだなというのは非常に感じております。

あと、このアピールするということ、どういうことをアピールするかというのは、ここの守口市さんで生まれて育って、幼少期のところで育ったところって、かなり魅力的というか。私は、ちなみに、東京23区ではなくて、西のほうの市の一番小さい狛江市でゼロ歳から10歳ぐらいまで育ったんですけれども、住みたいかというところは、やっぱり、あそこの名前が僕の頭の中にも出てきて、そういったところの、住みたい、じゃあ何があったかということ、新宿までは近かったです。特段何かそういう商業施設、西宮だとガーデンズとかは、特にないんですけれども、アクセスは大変よかったです。そうすると、都心からちょっと外れて住みやすいというところもあって、もう一回戻りたいなという位置づけがあるところですね。

アクセスがいいという守口市さんも、何をアピールするかは別、また議論が外れてしまうんですけども、意見を集めるとしたら、今言った20代、30代の守口市にずっと住んでる人からよさを聞く、その意見を集めるというところでワークショップを開けばかなり、これから定住しようと考えてる人や仮に住まいを置いている人たちに向けて、そういったところから意見を集めれば、よりよい議論ができるのではないかなと考えます。

以上です。

○委員長　ありがとうございます。

委員、お願いします。

○委員　先ほど委員、委員がお話しなさった内容と全く同感です。しかも、そのことは私もこれまでもお話をさせていただいておりましたけれども、守口市として本当に何を一番PRするのか、何を一番にまちづくりをしていくのかということ、はっきりと打ち出す必要があると思います。教育をしっかりとやっていくのか、子育て環境をしっかりとやっていくのか、緑豊かなまちづくりをやっていくのか、安心・安全、快適な住みよいまちづくりをやっていくのか、何かそういう守口市のキャッチフレーズがあるとは思いますが、具体的に何が守口市として一番魅力なのかということもしっかりPRしていく。また、PRすると同時に、どれだけ認知されているかといったことを、守口市にお住まいの方に、リサーチしてみて、その結果が、ちゃんとこちらの思いどおりになっているかどうかといったことも知って手を打ってい

く。そういうことが、こういったシティプロモーションというような形で、若い人の意見とか、守口市の住民の意見とかを多く取り込んでいける場として考えていけばいいのではと思います。

先進事例を見て、非常にこれは、うまく表現されているなと思いました。この「たかい、たかい、たかーい市」というので、高石市が何を指そうとしているかが、説明が無くともこの写真を見ればわかります。そんなふうに、守口も、このようなキャッチーな言葉で表現するのは難しいかもしれませんが、守口市として何を一番PRするのかというものはっきりさせてやっていくのがいいのではないかと思います。

○委員長 ありがとうございます。

委員、いかがでしょうか。

○委員 個人的な思いで、かつ、これまでの委員の先生方がおっしゃったことと大分重複するところもあると思うんですけども、シティプロモーションの先進事例ということで、いろいろキャッチーな言葉があるかと思いますが、これからの守口市としてキャッチフレーズ合戦といいますか、シティプロモーション合戦にこの状態から入っていくのはなかなか厳しいかなというか、インパクトがちょっとなかなか出せないかなと思ったりもするんです。

そういった意味で言いますと、プロモーションの仕方も地域外へのアピールであったりとか、地元愛を高めるであったりとか、定住・交流人口を高めるみたいなこと、いろいろ目的はあるかと思うんですけども、他市との差別化や、そこら辺の分析とか、20年後といいますか、若い方々がどのあたりを目指しているのかみたいな分析と、あと効果があまり見えにくいというところもありますので、PDCAサイクルですね、一応効果どうやってはかるのみたいなところがないとなかなか大変かなとかと思ったりしますので、いま一度、そのあたりも見つめ直していただければいいかなと思います。

○委員長 どうもありがとうございました。

○委員 今お話をお伺いして思うんですけども、地元の方は地元のことをよく知ってて、地元のよさも十分承知をされていらっしゃると思うんですけど、今お話を聞くと市役所の皆さん、7割が外から通ってらっしゃる。そうすると、よそ者ですね。私もよそ者ですけど、よそ者から見て守口

ってこんなにいいところがあるんだよと。今、以外に近いとかいうようなお話もあって、客観的に見て、守口のよさがわかる部分もあると思うんですね。

私、前、愛媛県の離島でも委員会を傍聴させていただいたんです。そこは、自然がいっぱいで、本当によそから来た人間は、「こんないいところないね」と言うんですけど、地元に住んでるとそのよさがわからないというところもあって、地元が感じてるよさとギャップがあったりとかいうのがあって、ほんと守口のよさを客観的に見るのは、どっちもミックスして行って発見できる場所もあるんじゃないだろうかなというふうには、今ちょっと聞いてて感じたんですけども。

○委員長 確かに日本人は、よくいろんな分野で黒船効果と言われますけども、中にいると、ある意味、快適でタコつぼ化して、どんどん深く入っていくんだけど、何か変革とか、そういうのには、かえって外部の人のほうがええかもしれないとよく言われますよね。

○委員 それだけたくさん、外から、私も今、委員がおっしゃられたように意外に、実は私、明石から通ってるんですけど、結構遠いねという話ですけど、電車に乗ってしまえばそうでもない。大阪から来ると、確かに大阪まで着いてしまえば、ここから先はすぐだねという話がありまして。これから私も守口の魅力探しをして地元には持ち帰りたいとは思ってるんですけども、そういうことも必要かなというようなことを考えております。

○委員長 この資料をいただいて、事務局のほうで説明いただいたんですけど、もう少し、どういうふうにプロモーションを、事務局としては展開することを考えておられるのか、もうちょっと具体的なお話をいただけますか。

○事務局 まず平成29年度、今年度の重点取り組みということで、今年度、シティプロモーションに関する予算がありませんでした、先ほど、市民の方から公募していいものをもらったりとか、お金をかけずに今年度、シティプロモーションしていけたらと思っております。

今回、広報広聴課が担当課になるんですけども、そちらでは適宜動いていっておるんですけど、まず今、始めておるのは、ホームページの充実ですとか、SNS、フェイスブックですとかインスタグラムといったものを設置して運用していってるところであります。

○委員長 僕は専門家じゃないので、専門の方がいらっしゃったら一番いいんでしょうけども、よく雑誌をぺらぺらと見てると、最近、駅でもそうですけれども、あるいはビルの上の広告とかあまりないですよ。ああいう広告の価値はどんどん下がってると。ホームページも、結構若い人はあまり見ないみたいですよ。今、僕ら学生さんと話してると、そんなもんで連絡を取り合ってるというのが結構あったり。

先ほど、途中で委員の方がおっしゃっていたように、ターゲティングというんですか。だから、あれも、これも、どれもと総花的に、いいよというのをたくさん言いたいときにはホームページがいいんでしょうけど、多分、それは羅列になって全然伝わらないんですよ。

ちょっとこれもテレビを盗んできた話ですけども、ユーチューブとかでいっとき、ちょっと前の話ですけども、「恋するフォーチュンクッキー」をいろんなところが勝手に踊るといのがすごく世界的にはやったことがあって、小学校とか中学校の子供たちが踊り出すと、すごく子供たち盛り上がり、そういう元気なところに越境してでも行こうかという子が結構ふえたとか、そんな話を聞きますので、今の若い世代で子育ての人たちがどういうものを使って情報を集めてるのかとか、そういうことも、できたら市役所内で7割も外から来てはるんだから、あんたやったらどれを見るんやいうこともちょっと内部でアンケートをとってみて、やっぱり、若い世代の方が、こういうものやったら見るよとかいうことを、そこに重点を、それこそ金かけずにしていくこともちょっと考えていいんじゃないでしょうかね。

それこそ、去年めちゃめちゃはやった「PPAP」でしたっけ、ピコ太郎が全然金かけずにめちゃくちゃはやったわけでしょう。あれは想定外のことやと思うんですけど。それは言いかえたら、メディアが変わってきて、映画だとか既存のテレビとか、そういうものではなくて、ものすごく極端な言い方で言うたら、ただでぽっと自分でできて、それがおもしろければ世界的に見られるという、そういう時代になってきてるので、プロモーションも、そういう意味ではおもしろいのかなと思うんですけどね。

○委員 重点取り組みテーマをシティプロモーションとして提案と書いているのですが、具体的に重点取り組みテーマというテーマはどのようなテーマで

しょうか。

○委員長 そのあたり、いかがですか。

○事務局 重点取り組みテーマ、このほかに各種、子育ての施策ですとか、教育の施策、ほかに都市整備関係といったテーマがある中で、シティプロモーションというテーマも羅列して、同じ土俵であったんですけど、その中で、特に今回シティプロモーションを重点取り組みとして、市のPRを発信したいということです。

○委員 シティプロモーションがテーマになっているわけですか。

○事務局 そうです、はい。

○委員 そうということですか。テーマをシティプロモーションとして、何か検討するということではないということですね。

○事務局 はい。

○委員 私がちょっと勘違いしていましたが、シティプロモーションをテーマと言われたときに、じゃあ具体的にどういうことを議論していくのかというのがあまり想像つかなかったんです。今まさに情報化社会ですから、目まぐるしく変化が激しいわけですよ。過去の10年、20年と、これからの10年、20年では、全くスピード感が違ってくるだろうと思うので、過去の10年、20年の守口を振り返ってみて、これからの10年先の守口を考えてみるとか、何かそういう具体的なテーマがあってシティプロモーションで、というのであればイメージが湧きますが、何かシティプロモーションだけと言われると、そこで何を議論したらいいの？って、ちょっと理解ができてなかったのを確認させていただきました。

○委員長 ほかに。

○委員 もし進めるに当たっては、どこが担当されるんでしょうか。新たに部署を設けられるんでしょうか、それとも広報広聴課でしょうか。

○事務局 担当部署は広報広聴課です。

○委員 そうですか。

○委員長 自分の田んぼの話で恐縮ですけども、最近、1つは文科省からも強く指導を受けるというか、むしろ強制的なイメージもあるんですけど、私、今お世話になってる大学が守口市にある唯一の大学。そういうところが、こ

これは昔の旧国立大学、公立大学、私立大学もそうですけども、1つは世界で研究をやっていくと、世界のトップランナーを目指す大学はやって頂戴と。これ多分10校ぐらい選ばれてるんですけど、それ以外のところは教育をやりなさいと。大学って学校ですから教育ですけど。

それと平行して、やっぱり地域にも貢献しなさいということをしごく言われてる。今言われてるからやるというのもちょっと情けない話ですけども、その一方で、今、私、お世話になってる大学は、学生さんが大体この京阪沿線からみえてるんですね。もちろん守口市の方もいるし、極端な場合、学生のほとんどが自転車か原チャリで来れるぐらいのところから来てる人が実は非常に多い。

入学したときに結構丁寧な健康診断するんですけども、これはここだけじゃなくて全国的な傾向で、女子学生で結核が出たりするんですよ。今どき日本で結核かというんだけど、結核いろんな理由があるんですけども、戦前というか昭和30年ぐらいまでは日本で死因の一番が結核だったんですけども、やっぱり栄養不良。いろいろと、それを大学の今、教授をされながら、お医者さんですけども、公衆衛生的なことを調べられてる黒川先生という方が、小学校はいいんだけど、中学、高校ぐらいの、1つはむちゃくちゃなダイエットをして、がりがりになると自分が美しいというような宗教的なところもあるんでしょうけど、ものすごい栄養不良になってて、その結果、いつの間にか結核菌に感染してる。

結核の感染って難しいんです。僕らもほとんど実は結核菌は持ってるんですが、それが表に出てきてない。昔、陽転とかツベルクリン反応ってやってて、陽転したということは感染したという証拠ですよ。ただ、それをじっと抑えつけてるんですけども、結局、栄養状態が悪くなると免疫系がだめになって、それが表に出てくると。結構な頻度で出るんですよ。アンケート調査とかで調査しますと、どうも中学校あたりのところは特に大きい問題じゃないかと。

それとはまた別に、守口市の教育委員会の方と話すチャンスがあると、僕は、さっきも言ったように、「うどん県、香川県」じゃないですけど、香川県は中学まで全部、学校給食です。ですから、小学校と同じで、学校に行っ

て座ったら自動的に給食が出てくるんですけど、おいしいか、まずいかは別にして、一応栄養学的にはいいと言われてる給食が出てくるんですけども、大阪ってそうじゃないんですよね。それを僕はひとつびっくりしたんですけど、大都市なのと思ったんですけど、大都市だから勝手にやってるんだと。

中学校で、守口市はお弁当を注文する。そうか自分が持ってくるか。その喫食率が非常に低いんだということを聞きまして、やはり値段の問題もあるんでしょうけど、いろいろアンケートで調べると、今の若い中学生の方たちがおいしいと思うものと私たちの時代の者がおいしいと思うものが、必ずしも一致してない。栄養学的にはいいんだけど、おいしくない。これよく言われるのは、病院に入院すると栄養学的にはいいんだけど、どうも病院食はうまくないと、勝手にウナ重を食ったとか、そういうことがあるんですね。

そういうので、今、守口市の方とも相談しながら、今、僕がお世話になってる大学はちょうど栄養士のコースとか、それから若い方もいて、去年は、例えば若い人が提案したアスリートのための間食というか、お菓子。これが、日本ハムが全国から500ぐらい集めて賞をくれてるんですけど、優秀賞をもらったりとか。アスリートでもおいしいお菓子を食べたいと。でも、体重制限とかいろいろある。そういう、割合若い人が食べておいしいものを、若い学生がつくと意外と人気があったりするもんですから。

そんなので、学校給食という、給食じゃないのかな、ちょっと微妙ですけども、中学校の給食にもお手伝いさせていただいて、栄養面はちゃんと満たしながら、かつ若い人がおいしいと思うものを提案とかもできたらなと思うんですね。これは多分お金かからないと思います。そういう中で、教育の環境をよくするとか、そういうことも必要かなとは思うんですけどね。

何回も議論出てますけども、何事もお金をかけりゃいいというものでもないでしょうし、そこにいる人たちが中心になって盛り上げる。ちょうど、先ほど申し上げたように、学生さんたち、大体、守口とか門真とか、この近隣のそこで育った人がものすごく多いもんですから、そういう中で提案させていただいたらなと思うんですけども。

いろんな、それぞれ所属されてる学校とか企業さんからも何か御提案いただいたら、若い人から、こんなおもしろいやつがおるよというような紹介を

いただいたら、何か次おもしろい展開があるかと思うんです。

パナソニックさんでも、隠れたお笑い芸人みたいなものいっぱいおるんじゃないですかね。お笑い芸人じゃないけど、アイデアにあふれた人がいっぱいいるということないですか。

○委員 いるんでしょうね。

○委員長 こんなことを言うたら、物を売ると、ある意味では同じかもしれないと思うんですけどね。言い方は悪いんですけど、いろんなものがあるって、パナソニックだけのものって多分1つあるんでしょうけど、一方で冷凍冷蔵庫だとか、テレビとか、ばつと並んでる中で売っていくとかいう、そういうことに非常にいろいろアイデアを持った人がいらっしゃると思うので、そこをただでアイデアをもらって。

○委員 例えば、家電は家電、住宅は住宅、従来は1つのカテゴリー別の事業だったのですが、弊社では今、クロスバリューイノベーションとあって、それらを合わせて住空間という新たな分野で、新しい事業を創出しようとして、変化していていますから、当然人も変化していく必要があります、今まではそれぞれの専門分野の専任者がいましたが、各事業分野ごとの人がクロスすることによって、新しいアイデアを発想するというに変化してきています。

オフィスもそれに応じた形でのオフィスということで、今まででしたら、例えばデスクワークが主体だったのが、これからはコミュニケーションが重要として、いろんな人と人との出会いが新しいアイデアを創出する。まさにクロスバリューイノベーションを実現しようというオフィスを今やろうとしています。

それは我々の働き方改革だということで取り組んでいますが、そのように考えれば、守口市がこういうテレワークを行うことで、偶発的に他人同士がそこで出会い、コミュニケーションを行うことによって、新しいものを生み出すことができるかもしれないというように転じていけばいいなと思いました。

○委員長 委員、いかがですか、大学。微妙に離れてるかもしれないですけど。

○委員 シティプロモーションというか、大学プロモーションみたいなこともやっていかないといけないなみたいなところはあるんですけども、実際、私どもの大学も取り組んではいるものの、なかなか難しく、素人って割と評価はできるんですけど、広報のプロ並みの改善案みたいなのをさせなくて苦しんでるところで、何とも言いがたいところがあるんです。

大学の話で恐縮ですけど、例えば、関関同立みたいなものがある中で、大阪工大ってその中にも入ってないし、あるいは、近大さんはマグロの大学とか、早慶近とか、そんな言葉をつくったりとかいろいろやられてます。理系の大学は関西では少ないんですけども、その大きい、がっちとしたブランドの中で大阪工大の存在感をどうやって出していくかみたいなところは長年取り組んでるんですが、なかなか成果は出てないなと思うので、いいアイデアがないのが実態です。

○委員長 もう一度、市民の方から、何かありますか。特には、ございませんか。

○委員 大工大さんも頑張っていらっしゃるとは思いますよ。工科大学同士で連携として広告も載せておられるのを拝見したこともありますし。今、大学の中では、先ほどおっしゃった近大でしょうね。近大がずば抜けて応募者数が一番になったというお話も聞きますので、それはそれで。

先ほどワークショップと言いましたが、最近はやりの、もうちょっと気楽に参加できるワールドカフェ形式で、市民、行政、企業、大学の先生方とかも含めて、気軽に話ができる機会があったらいいんじゃないかなと思っております。

例えば、京阪電車を淀屋橋から出町柳、一本借り切って走らせて、特別列車を設けて、そういう中でそういうことを行う。それをFM-HANAKOで放送、また新聞各社に取材に来ていただいて行う。テレビが放送で流すのは、日本一とか世界一とか、ばかばかしい、そういうあたりのことを取り上げて放送してくれますので、それで一気に何千万かの効果はあるんじゃないかなと思います。

世界基準で通用しているパナソニックさんがここにありながら、もっと守口市とパナソニックさんとで大きなことができるんじゃないかなと思ってま

す。吹田市は、NTT西日本と先ほどのシティプロモーションについてコラボして取り組んでおられますし、もっと行政は民間企業と一緒にコラボレーション、あと大学も、関西医大、国際大学があるわけですから、そういう英知を結集すれば何か生み出せるんじゃないかなと思っております。

以上でございます。

○委員長 どうもありがとうございます。

ほかに御意見ございませんか。

最後、僕は事務局のほうで用意していただいた資料を見て、実は一番下の池田市のチキンラーメンと池田市と大阪成蹊大学って、池田市、こんな1つのメーカーの、それも1つの製品を出していいのかよとちょっと内心想ったんですけども。先ほど近畿大学の話も出ましたけど、近畿大学の副学長をしてるの僕、同じ研究所の後輩ですけども、ちょっとお話が出たようにマグロで売ったんです。でも、近畿大学、学生数だけでも10万人ぐらいいるんですけど、マグロをやってるのは10人といないんですね。

でも、途中でいろいろと御意見がありましたけど、守口市の、特にプロモーションを考えるときに、あれもこれもずっとやると結局何も残らないと。その逆に、近畿大学の中でも、うちもマグロばかりではないと言ってる先生いっぱいおるんだけど、それでものすごくキャッチしてますよね。

市役所の方が原案を出していただくときに、むちゃくちゃかもしれないけど、何か1つぽんとおもしろいというようなことを知恵を絞って出させていただいて、そのときに、それこそ、ここの地元の産官学で連携しながら、ああでもないこうでもない、特に若い方を中心に、それこそお金のかからないプロジェクトチームをつくって頑張っていたらどうかなとも思います。

先ほど非常に有意義な御意見をいっぱいいただいたと思いますので、事務局の方、そういう議論を踏まえまして、守口市でより有効な、おもしろい取り組みを推進していただけたらと思います。何とぞ、よろしくお願いします。

それで、今年度の本委員会の進め方について意見交換をさせていただきたいと思いますので、この件につきまして、事務局より説明をお願いします。

○事務局 では、お配りしてる資料3をごらんください。

今年度、創生委員会は3回予定をしております。本日が1回目、5月で実

施しておるものです。第2回につきまして、シティプロモーションに関して、先進市に視察に行こうかと思っております。もしくは、先進市の方を招いて講演してもらい、もしくは、シティプロモーションに関するセミナーに参加していただきたいと思っております。行政の、我々市職員以外の目で、そういったものを委員の皆様に見ていただければと思っております。

セミナーですとか視察については、やはりこれも相手方があることで、日にちは指定してしまうことがございます。皆さんお忙しいと思いますので、なかなか皆さん参加できないと思いますけども、可能な委員だけ参加するような形になってしましますが、御了承ください。

第2回の視察のほうを終えまして、第3回を10月に予定しております。こちらで、きょうの議論と第2回の視察していただいて、それを踏まえた上で、第3回、今後のシティプロモーションに関する取り組み、また、次年度、平成30年度に予算が必要であれば、予算の根拠となるような形で提言していただければと思っております。

以上でございます。

○委員長 ありがとうございます。

これにつきまして、何か御質問あるいはコメント、御意見ございますでしょうか。

それこそ、話を聞いてると離島のプロモーションというか、創生までかわられた委員から、こういうことはやったほうがいいよとかいう経験的なセッションがもしありましたら。

○委員 まず、勉強させていただかんといかんというところで、ほかのところの視察は行かせていただければなとは思っています。

○委員長 ほかにございませんでしょうか。

そしたら、きょうは非常に実り深い豊かな御意見いただいたと思うんですが、この議論も含めまして、今年度、特にプロモーションといいますか、守口市の、1つはイメージ戦略につきまして、スケジュールとか、御講演いただくのか、あるいは、実際、先生方お忙しいと思うんですけども、視察に御一緒いただくと。日程等につきまして、また事務局と委員長のほうで調整させていただきますので、皆さんに御相談させていただきたいと思っておりますので、ぜひ、

よろしく申し上げます。

さらには、皆さんのお勤めのところで、私もそうですけど、ベテランだけど若い方もいらっしゃると思うので、何か立ち話でもいいアイデアがあるというようなことがありましたら、また、ぜひお教えいただいて、いい形で守口を盛り上げさせていただきたいと思います。何とぞ、よろしく申し上げます。

本日、議事録でございますけども、いきなりで申しわけないんですけども、委員と委員に署名委員をお願いしたいと。お二人に書いていただくわけじゃないので、安心していただいて、議事録にうそがないというようなことを確認していただきたいと思います。

事務局のほうから何かほかにございますか。

**○事務局** 創生委員会の任期についてですけれども、新たに委員になられた方は、今期の29年8月25日までの委員の期間になっております。既に委員の方も8月25日の期間になっておりますけども、今年度いっぱい、平成30年3月31日まで延長しようと思っておりますので、また、改めて皆様の任期延長についてのご意向を、またメール等で確認させていただきますので、そのときはよろしく申し上げます。

**○委員長** どうもありがとうございました。

ちょっと早いんですけども、きょうはお忙しい中、御出席いただいてありがとうございました。 閉会させていただきます。

◇ 午後2時30分 閉会

~~~~~